

第1回福井県文化芸術推進会議 議事録

日時 令和7年3月17日(月) 16:00～18:00
場所 福井県庁 6階 大会議室
出席者 委員 ※座長(県職員)を除き、五十音順・敬称略
青山直弘、朝倉由希、浅野桃子、小畑善敬、坂本紫崖、嶋田浩昌、
玉森慶三、友田堅七郎、長谷光城、畑中容子、松谷由美、水井推山、湊七雄、
猪嶋宏記(座長)
オブザーバー
和田真生(福井市)
事務局
福井県 高校教育課 副部長(高校教育) 岡本浩之
義務教育課 参事(教科教育) 橋本貴志
生涯学習・文化財課 課長 志尾武章
文化課 副部長(文化) 三武紀子 他

1 開会

- ・座長あいさつ

2 議事

(1) 「ふくい文化創造センター(仮称)」について

[事務局]

- ・資料1により、「ふくい文化創造センター(仮称)」の目的、組織等について説明

[猪嶋委員(座長)]

- ・「ふくい文化創造センター(仮称)」の具体的な事業内容について、福井県文化振興事業団の玉森委員からご説明いただきたい。

[玉森委員]

- ・資料2により、「ふくい文化創造センター(仮称)」の具体的な事業内容について説明

[猪嶋委員(座長)]

- ・ただ今、「ふくい文化創造センター(仮称)」の目的や事業内容について説明いただいたが、委員の皆様には、それぞれの立場から、このセンターを中心にもっとこんなことができるのではないか、あるいは自分たちの活動とどのようにリンクできるかなど、ご提案・ご意見を賜りたい。

[朝倉委員]

- ・「福井県文化振興プラン」で掲げた目指す姿を実現していくためには、多くのプロジェクトを実行していく体制が必要である。それがまさに今立ち上げようとしている「ふくい文化創造センター（仮称）」ということになるので、今年度中に構想を立て、来年度4月1日からスタートさせるまで持ってこられたのは非常に良いことだと思う。
- ・文化振興のあり方は、今、非常に幅広くなってきている。文化の多様な力をまちづくりや共生社会の実現など様々なところに活かしていくことによって、文化の重要性が県民に実感を持って受け入れられていくことで、福井が持続的な魅力ある地域になっていくことが非常に大事だと思っており、センターに期待するところも非常に大きい。
- ・ただ、もちろんセンターだけでできることではなく、皆さんとの協働が必要であり、その協働の「つなぎ手」となるのがまさにセンターだと思っている。
- ・「福井の文化が新しくなる」ということを、関わっている人みんなで発信し、気運を盛り上げていくことができればよいと思っている。

[湊委員]

- ・私自身、美術作家として作品の制作発表を行っているほか、アートディレクターとして展覧会のマネジメントなどもやってきた。センターが動き始めると、表現者とセンターを繋げていく通訳のような存在が必要になってくるので、自分自身はそういった部分で関わっていきたいと思っている。
- ・自分は長くヨーロッパに住んでいたが、様々な人が会う機会を行政側が掛けていた。この先、県の中で大きな動きを作っていこうと思うと、人と人が会う機会を作っていくことが重要であり、そこがセンターに期待するところである。
- ・「文化創造センター」という名称がついているが、センターが中心となって事業をしていくというよりも、実践者である地域の住民やアーティストが顔を合わせる機会をつくるなどして、波紋を広げていくことが重要な役割である。
- ・先日、県が助成しているアートプロジェクト実践団体の活動発表会があったが、回を重ねるごとに参加者が打ち解けて、明るい話題が出てくるようになった。2年、3年と積み重ねていくうちに、このような動きが広がっていくといいと思う。

[猪嶋委員（座長）]

- ・ご指摘いただいたように、行政の仕事は予算をつけた時の計画どおりに進めば一応の成功という形になりがちだが、行政ができることには限界がある。センターが実施する事業をベースとして、県民に実践の輪が広がっていくような、様々な人が重層的に絡み合っていくようなやり方を考える必要があると思う。
- ・次に、実際活動をされている皆様からご意見をお伺いしたい。

[水井委員]

- ・私が今、福井県文化協議会で一番進めたいと思っているのは、底辺の拡大である。プロを育成

するというよりも、少しでも多くの人に文化芸術に親しんでもらえる機会を作っていきたいと考えている。

- ・県内17市町の状況を見ていくと、人口の少ない市町では、県文化協議会が市町文化協議会と一緒に実施している選抜美術展、選抜芸能祭がその町で一番大きな文化事業となっており、市町も予算をつけてくれている。
- ・この事業をうまく活かして、分野横断型にしていくことで、参加した県民が思いがけない分野の文化芸術に触れるような仕掛けを考えていきたい。

[坂本委員]

- ・福井県文化協議会のメンバーとして美術分野を担当している。
- ・美術についていうと、展示会など開始しても、出品者の関係者が見に来るだけで、なかなか他の人に広がらない。他分野とのコラボや体験コーナーの設置などによって、少しずつ参加する人を増やしていけるとよいと思っている。
- ・ただ、それを実践する施設・会場がなかなかないので、そこを検討していただきたい。

[松谷委員]

- ・演奏者の視点で思ったことを述べさせていただく。
- ・音楽（音）はすぐに消えてしまうものだが、消えないように、アートや技術の世界の中で空間の中で連想するとどうなるだろうと思ったことがあり、大野市の「COCONOアートプレイス」という場所で湊先生の作品を展示した際、自分が作品から受けたインスピレーションを音楽にして発信するという作品鑑賞とコンサートを合わせた企画を実施したことがある。目と耳の両方で同時に鑑賞すると、大変豊かな気持ちになるので、これを学校にも広げて、子どもたちにも体験してもらえるようにしていきたい。
- ・「越のルビーアーティスト」という制度ができてかなりの年数が経過し、子どもたちが憧れる対象になってきている。「越のルビーアーティスト」の演奏を子どもたちが直接聞く機会を増やし、これからの未来を担う子どもたちに豊かな感性を育んでもらえるようにしたい。

[長谷委員]

- ・「文化創造センター（仮称）」という名称は、新しい文化・芸術を創るという目的がはっきり示されていて良いと思うが、事業内容を見ると既存の文化団体、文化活動を重視しているように感じられる。新しい文化・芸術の創造に向かってしっかりと進めてほしい。
- ・「ふくい文化創造センター（仮称）」が福井県全体の文化施設の中でどのような位置づけになるのかがわかりにくい。
- ・福井県に観光に来た人に「福井県の文化関係で最新の情報がほしい」と言われても、渡せるものがない。福井県文化振興事業団が出している「ブンカ」という情報誌があるが、県内の文化芸術に関する情報（展覧会の開催情報など）を集約した情報誌をセンターで出すことができるとよい。
- ・障がい者アートについては、指導者が不足しており、育成が必要。また、指導者の謝金や材料

費もなく、ほとんどがボランティアである。「共生社会」というと聞こえはいいが、人材、資金など難しい問題が多い。具体的にどう進めていくかしっかり考える必要がある。

- ・次世代の育成について、美大や音大に行きたいという生徒がいても、教育系の学部しか出ていない教員が受験指導することは大変難しい。高校の教員の資質を上げるために、予備校に派遣する、あるいは予備校の先生に来てもらって指導をうけるといった対策が必要であり、そういうことをセンターでやってもらえると有難い。

[猪嶋委員（座長）]

- ・今いただいたご提案は全て大切なことであるが、予算化について今すぐ答えを出すことはできないので、今後検討していきたい。
- ・次に、活動者に寄り添う立場の方々からご提案・ご意見を伺いたい。

[友田委員]

- ・福井県博物館協議会の会長をさせていただいているが、博物館と一言と言っても様々な施設があり、それぞれがいろいろな取組みをし、様々な方と連携する中で、多くの方に来ていただきたいとか、文化芸術を担う人を育てていきたいという思いはどの館も共通していると思う。
- ・「ふくい文化創造センター（仮称）」の取組みと近い関係にある施設もあれば、そうでないところもあると思うが、どんどん連携させていただけたらと思う。

[浅野委員]

- ・今回「ふくい文化創造センター（仮称）」が設立されることはまたないチャンスであり、気運を盛り上げていくために多くの人と関わりを持って、ファシリテーターのような役割を担いながら進んでいくとよいと思う。
- ・一つひとつの事業を縦に見ていくだけでなく、横串をさすようなことを試みてもらえると良いと思う。
- ・そうすることで、莫大な予算をかけなくても、人やもの、場所をお互いに交換し合いながら盛り上げていくことができれば、福井の文化が特徴的で新しい取組みで醸成されていっているということが自然と県内外に知れ渡っていくのではないかと。

[猪嶋委員（座長）]

- ・続いて、行政と企業との協働について、企業側の立場からご参加いただいている委員の皆さんのご意見を伺いたい。

[青山委員]

- ・私が所属している福井新聞の立場からいうと、いわゆる地域の文化との付き合いはとても長く、新しくできる「ふくい文化創造センター（仮称）」と色々な形で協力・連携していくことは可能だと思う。
- ・少し話がずれるが、新聞社にもいろいろな分野の取材をする記者がいるが、だいたいどこの新

聞社でも、政治部の記者や警察関係の取材をする記者が一番幅をきかせている。しかし、文化担当の記者が取材をするネタが、一番地域と結びついているし、その地域の風土や歴史、自然環境などと結びついていて、地域の特色が出る。だから、文化担当の記者にはもっと胸を張っていいと常日頃から社内で話をしている。同じように、県庁の中で文化課長と名の付く人が一番幅をきかせるような組織になってほしいと思っている。

- ・「ふくい文化創造センター（仮称）」が新設され、そこに新たに4人も人が配属されるということは、福井県にとってはとっても大きな決断だったと思うが、予算の裏付けがどうなっているのかという話が全く見えない。福井の特徴を一番出せるはずの文化振興にしっかりと予算をつけて、人も増やさなくてはいけないと思うので、金額的などころも前面に出してもらえると他の委員の皆さんも納得感があるのではないかな。

[事務局]

- ・「ふくい文化創造センター（仮称）」関係事業については、約7,800万円を令和7年度当初予算で計上しており、福井県文化振興事業団に包括的に委託して実施する予定である。令和6年度の文化振興の関係予算は約4,600万円であったので、約3,200万円増強している。
- ・この中には、センターの人員として予定している地域おこし協力隊3名分の人件費も含まれているが、一番大きいのは、県民の主体的な活動を応援するためのアートプロジェクト支援事業であり、約4,100万円を計上している。これは、令和6年度の助成実績の約1,800万円と比較すると約2倍であり、センターにおいて相談・助言などの体制も強化しながら県民主体の文化芸術活動を応援していくことにより、県の長期ビジョンに掲げる「活力人口100万人」の達成にもつなげていきたいと考えている。

[青山委員]

- ・2桁少ないのではないかなと思うが、教育や福祉など大切なことは他にもたくさんあるので、皆さんが納得されるのであればそれでいい。ただ、もっとまとまった数字が見えてくると、県として文化振興に本気で取り組んでいるという姿勢が明確になり、委員の皆さんも安心するのではないかなと思う。

[嶋田委員]

- ・私からは3点申し上げたい。
- ・1つ目が、自分自身の反省点でもあるが、企業活動と文化活動の関係について、まだしっかり腑に落ちていないところがある。これから企業の経営者等にご協力やご参加を求めていく時にまだうまく説明がつかないと思っているところがある。ブランドイメージとか、従業員のモチベーション向上とか、創造性の育成などと言うとかなり漠然としてしまう。企業も大変苦しい状況が続いているのに加え、スポーツやボランティアなど、各分野の行政から負担を求められている。なぜ企業が文化芸術を応援する必要があるのか、しっかり理屈付けをしないと、企業からの協力は得られない。

- ・ 2つ目に、「ふくい文化創造センター（仮称）」の事業内容が音楽に偏ってる点が気になっている。文化というと、美術もあれば、演劇も、映画もあるし、地域の伝統芸能もある。文学もそうだし、最近ではデジタルアートなども入ってきて本当に幅広い。少しずつでよいので、広げていっていただきたい。
- ・ 3つ目に、資料を見ていると「障がい者」「子ども」「高齢者」などと区分されているように見えるが、いつかこのような区分がなくなればよいと思っている。障がい者も健常者も同じ表現者として同じ土俵に立つことが最終的な目標になればいいと思う。

[小畑委員]

- ・ 観光の仕事をしているので、そちらの目線でお話しさせていただく。ご存知のように、最近では雄大な景色や美味しいものなどの目で見えるものではなく、精神的な充足や心の安らぎなどを求める観光客が増えており、まさに福井県の時代が来たと私は思っている。
- ・ 福井県にいかに来ていただくかという着地型の観光商品作りをしているが、伝統・文化に着目し、福井ならではの特別な体験を提供する商品をたくさん作りたいと思っている。そのために県内各地を訪ねているが、伝統や文化について語れる方が少なくなっていることを痛感している。特に40代くらいの少し若い世代は地元に対して興味がない方がたくさんいる。郷土愛や文化に対する熱意、愛情がないように感じる。
- ・ 「ふくい文化創造センター（仮称）」の事業の中に次世代の育成に関するものもあったが、子どもの頃に郷土に対する誇りを育むことが重要だと思う。誇りがないと、国内外に向けて力強く発信することもできない。
- ・ 観光事業者としても、ぜひセンターの事業を成功させてほしいので、ぜひ「文化振興のために観光を利用してやるぞ」という気持ちで取組みを進めていただけたらと思う。

[猪嶋委員（座長）]

- ・ 次に、文化芸術を観光やまちづくりに活かすという視点から、ご意見をお願いしたい。

[畑中委員]

- ・ 県観光連盟としては、情報発信をしっかりとやっていく必要があると感じている。連盟が運営するホームページ「ふくいドットコム」は、月100万ほどのPVがあるが、掲載情報の中で文化の部分がまだまだ薄く、公立文化施設の情報くらいしか掲載されていない。民間が実施しているような行事やイベントの情報を「ふくい文化創造センター（仮称）」で集約してもらえれば、そこにリンクを張るようなかたちで観光連盟からも発信できると考えている。
- ・ 県観光連盟では外部から来てもらっているアドバイザーが、ふくまちブロックの一面を借りて、月1回程度、観光事業者のゆるやかな集まりを開催しはじめた。ネットワークづくりにつなげたいと考えており、文化も同じように気軽に集まれる場所ができるとよいのではないかとと思う。
- ・ 県観光連盟ではコンベンションの誘致もしているが、レセプションの時に伝統芸能などを披露する時間を設けることが多い。主催者向けに県内の祭りやアーティストを紹介するためのデー

データベースもあるので、情報をいただければ追加してご紹介もしていきたい。

- ・福井駅の観光案内所の運営もしているが、月2回程度体験イベントを開催している。昨日もペーパーバッグを作る講座を開催したが、かなりお客さんが多く、文化的なことをやってみたいという方は潜在的にかなりいると思われる。ただ、新しいことを始めるのはハードルが高いものなので、気軽に参加できるような場をもっと増やしていけるとよいと思う。
- ・観光案内書では引き続き体験イベントを実施していくので、何かやってみたいという団体などがあれば紹介いただきたい。

[和田局長（福井市）]

- ・「ふくい文化創造センター（仮称）」との協働体制として、会場確保という部分ではフェニックスプラザ等々の文化施設がある。また、広報の部分では市政広報などを活用してきめ細かに市民にお知らせすることができる。
- ・センターはアーツカウンシル機能を有する文化政策専門機関であるということなので、企業協賛をはじめとして県を中心とした資金確保に期待したい。
- ・2点目に人材ネットワークについて。政府で保有する人材ネットワークに加え、各市町で支援している中間支援組織とセンターと連携体制を構築することが重要と考えている。例えば、福井市には福井市文化協会や芸術文化フォーラムなどがあるが、センターと連携することで、今まで市内でのみ行われてきた活動がもっと広域的に展開できると思っている。
- ・3点目に部活動の地域移行について。令和8年度から段階的に移行を行うと聞いているが、地域クラブの立ち上げの補助や伝統文化体験の開催補助、指導者育成の補助、ハラスメントや安全管理研修会など様々なことが必要であり、支援策を考えていただきたい。特に吹奏楽部の地域移行が課題となっており、音楽に関する知識やノウハウを持つ県文化振興事業団には吹奏楽部の継続的な活動への支援事業なども検討いただきたい。

[猪嶋委員（座長）]

- ・オブザーバーである小浜市の青木様にご欠席のため、事前にご意見をいただいているので、事務局から紹介する。

[事務局]

- ・小浜市の青木部長からは以下のようなご意見をいただいている。
- ・福井文化総合センターについて、特に異論はないが、今後、センターが展開する事業の効果検証が課題と思われる。
- ・「福井県文化振興プラン」の実現に向けては、伝統行事等の継承には、行事を行う人手だけではなく、行事を行う上で重要な用具の修理・製作ができる職人の確保、資材の不足も課題になるとと思われる。今後、保存団体等の意見をお聞きいただき「必要な支援」をご検討いただきたい。
- ・「福井県文化振興プラン」の進捗については、今後も、地域ならではの景観づくり、文化財・伝統行事の保存継承、観光活用等の支援、地域文化を支える人材確保の支援をお願いしたい。

[猪嶋委員（座長）]

- ・小浜市から「センターが展開する事業の効果検証が課題」というご意見があったが、これについて、玉森委員にお考えを伺いたい。

[玉森委員]

- ・「ふくい文化創造センター（仮称）」の事業を県文化振興事業団が独善的にやっていくのではなく、皆さんからその指標評価をいただけるような「評価委員」の制度を設けたいと考えている。
- ・この会議の委員の中から数名に評価委員になっていただき、来年度は特に、センターが伴走支援するアートプロジェクトについて、それぞれのご専門の視点から評価をしていただきたいと考えている。ついては、マスコミの観点から青山委員に、観光の観点から小畑委員に、企業・経営者の視点から嶋田委員にぜひ評価委員をお願いしたい。

[猪嶋委員（座長）]

- ・玉森委員からの提案について、青山委員、小畑委員、嶋田委員はご了承いただけるか。

[嶋田委員、青山委員、小畑委員]

（了承）

[猪嶋委員（座長）]

- ・「ふくい文化創造センター（仮称）」について他にご意見などあるか。

[朝倉委員]

- ・アーツカウンシルは、現在、全国で20箇所ほど立ち上がっているが、統一した定義は全く無い。福井独自の素晴らしい仕組みを皆さんで作っていきたいと思っている。
- ・今日、皆さんから頂いた情報やご意見はとても具体的であり、やるべきことが多すぎて大変ではあるが、こういった意見交換の場を持っていくことが今後も大事だと思う。
- ・「ふくい文化創造センター（仮称）」ができて、プログラムオフィサーのような人が増えることによって、県内各地の文化事業を実際に見て、情報を集約・発信することもできるようになっていくと思う。先日訪問した八戸市では、市の職員と私設の美術館を運営している方が協働して非常に充実した情報発信を行っていた。「共創パートナー」であるさまざまな文化施設から様々な情報が集まってくる仕組みがあり、それを整理して発信している。そのような仕組みも皆さんと一緒にやっていたらと思う。
- ・文化の活動は幅広いので、センターだけでは担えない部分もあると思うが、そこは、県民主体のアートプロジェクトがどんどん新しいコラボをしていくことで拾っていけるのではないかと思う。先ほどご意見にもあった美術との音楽とのコラボや、文化と教育、文化と福祉など分野を超えたコラボなど、今まで繋がらなかったところが繋がっていくということもセンターに求められている。

- ・企業と文化については、これから研究会をしながら深めていけたらと思う。まだ理解されにくいとは思いますが、大量生産・大量消費の時代ではなくなった今、いろいろな産業がもっと創造的になっていく必要があります。文化的な要素が企業に入ってくることは大変重要だと思う。経済が文化を支えるのではなく、文化があるから経済も生まれる。そのいい循環を具体的にどう企業活動に落とし込んでいくかなどについて、研究会で考えていきたい。
- ・青山委員のご意見に大変共感しており、メディアの中でも、行政の中でも、文化に携わることもっと誇りを持てるようになると思う。また、福井県の中での文化の位置づけをもっと高めていきたいと思っており、「文化」「アート」などという言葉の流通量を増やしていきたい。

(2) 官民の協働による推進が必要なプロジェクトについて

(3) 「福井県文化振興プラン」の進捗について

[猪嶋委員（座長）]

- ・続いて、第1回会議でも議論していただいた官民協働による推進が必要なプロジェクトについて、また、「福井県文化振興プラン」の進捗につきまして、まずは資料3・4に基づいて事務局からご説明させていただく。

[事務局]

- ・資料3により、官民協働による推進が必要なプロジェクトについて説明
- ・資料4により、「福井県文化振興プラン」の進捗について説明

[猪嶋委員（座長）]

- ・ただ今ご説明した協働プロジェクト、また、「福井県文化振興プラン」の進捗について、ご意見などある方は挙手をお願いしたい。

[長谷委員]

- ・資料3の5ページ目、熊川宿若狭芸術祭の開催について、課題の中に「福井県のインバウンド宿泊者数：約6万3800人」とあり、観光が問題になっていることがわかる。
- ・若狭は全国一の伝統文化の宝庫であり、年縞博物館や縄文博物館もある。熊川宿若狭芸術祭とそれらをひとつの観光プランにして人を呼び込むことはできないか。

[猪嶋委員（座長）]

- ・若狭には全国に誇るべき文化遺産が数多くあり、ストーリー性もある。今は点でしかないそれらを面にして売り込んでいくことは、我々もやっていかななくてはならない。
- ・やはり、うまく情報発信をしていくということと、うまく関係者を巻き込むということが重要になる。

(4) その他

[猪嶋委員(座長)]

- ・最後に、会議の議題にはあげていないが、この会議の目的である民間と行政の協働をさらに進めるため、会議の運営面等で何かできることはないか考えている。
- ・例えば、学生などの若い世代の意見も取り入れることができるとよいと考えている。新年度もこの会議は継続して開催していきたいので、そういったことも考えながら会議の運営をしていきたいと思っている。
- ・今回も多数の貴重なご提案・ご意見をいただいたことに感謝する。いただいたご提案・ご意見については、令和7年度以降の文化振興推進に役立てさせていただく。

3 閉会